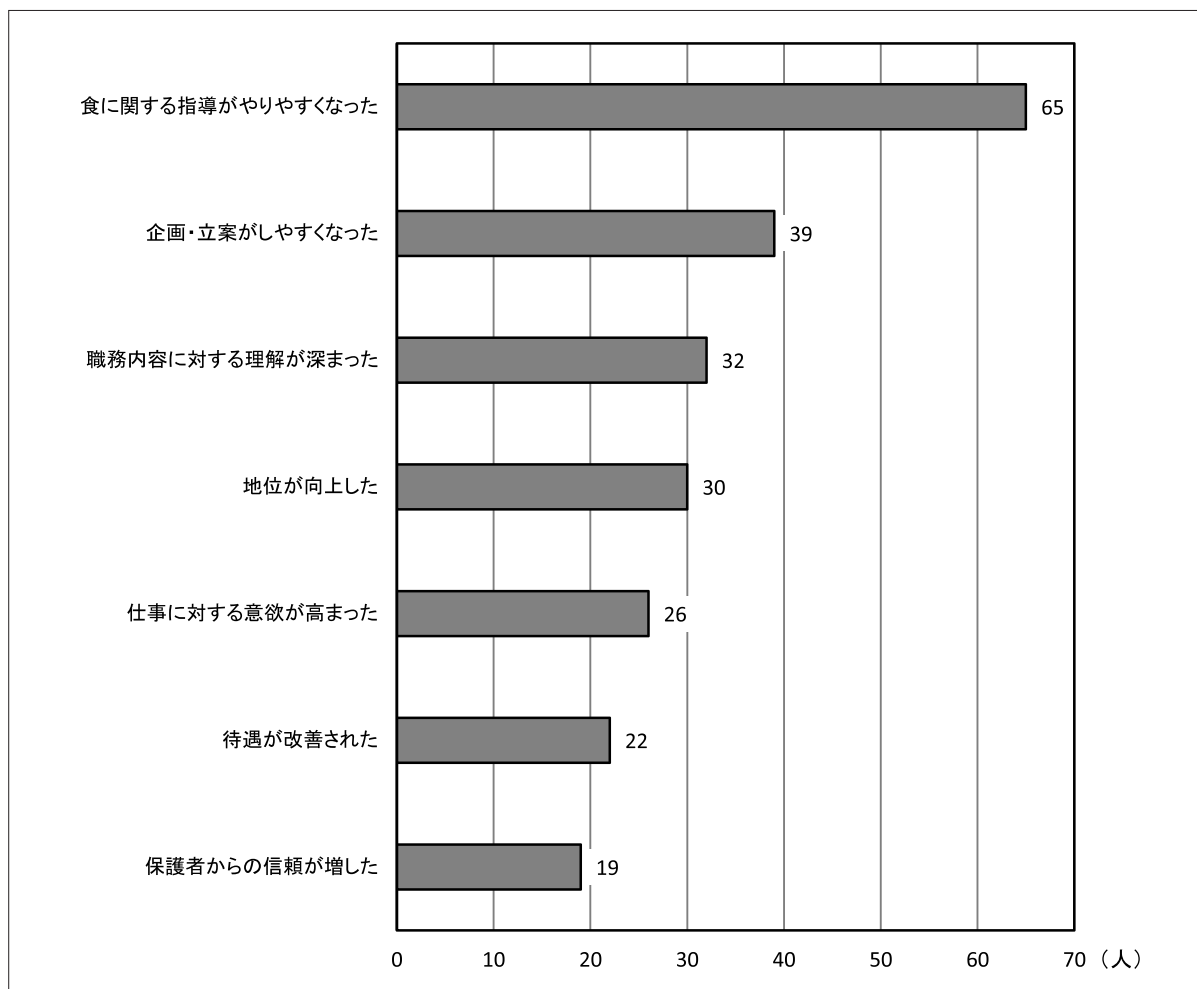


〈専門委員会栄養教職員部アンケート調査結果〉

I 栄養教諭としての活動について

1 学校栄養職員から栄養教諭となって良かったことは何ですか。(複数回答) n=80



考 察

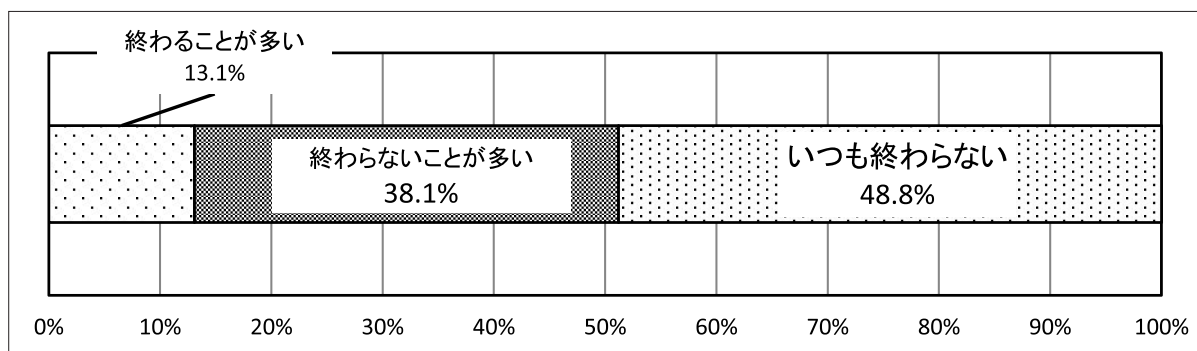
「学校栄養職員から栄養教諭となって良かったこと」についての調査では、主に「食に関する指導がやりやすくなった」「企画・立案がしやすくなった」「職務内容に対する理解が深まった」など、活躍の場が広がっている様子がうかがえる。また、個別指導などで関わりが増えたことで「保護者からの信頼が増した」と感じる栄養教諭が昨年より増えている。

児童生徒の実態を把握し、毎日の学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導全体計画に基づき教科・領域を横断した指導や、個に応じた指導を推進できることは、栄養教諭が配置されることの大きなメリットといえる。

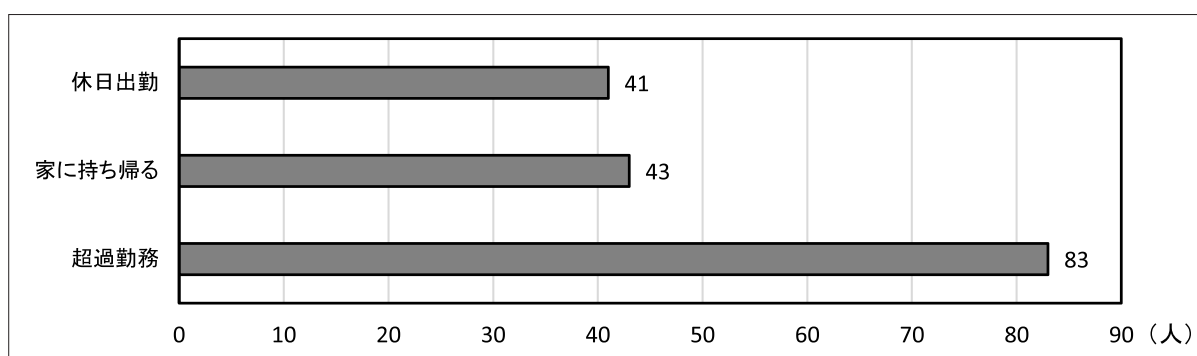
また、学校給食における食物アレルギー対応や、肥満・痩身・スポーツをする児童生徒への個別指導など高度な専門性へのニーズもますます増加している。栄養教諭としての使命感をもって、資質・能力の向上に努めることが求められる。

II 学校栄養職員を対象とした勤務状況について

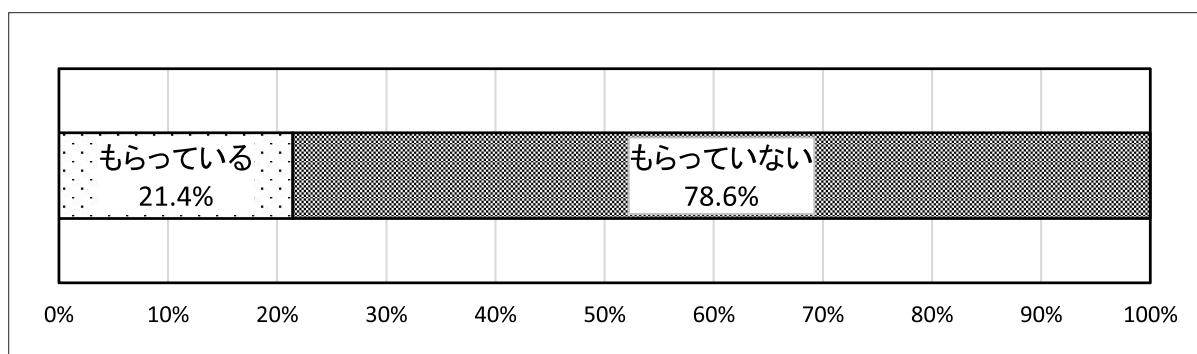
1 仕事は勤務時間内に終わりますか。 n = 84



2 勤務時間に終わらない仕事はどうしていますか。(複数回答) n = 84



3 超過勤務手当は実績どおりに支給されていますか。 n = 84

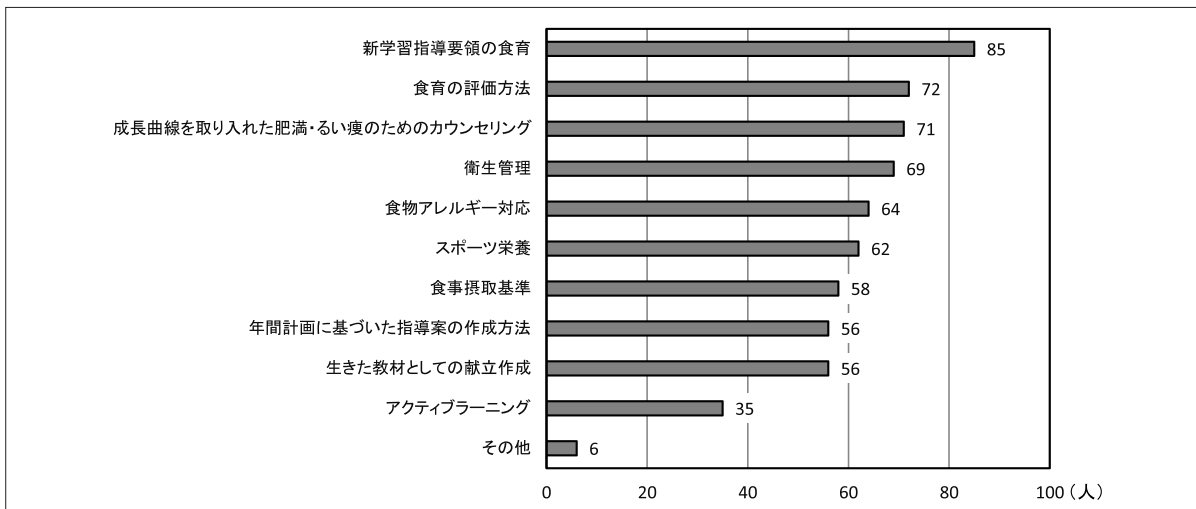


考 察

学校栄養職員の勤務状況についての調査では、勤務時間内に仕事が「いつも終わらない」「終わらないことが多い」と答えた人は、全体の86.9%であった。昨年度の85.5%より1.4ポイント増加した。勤務が終わらない理由として、食物アレルギー対応や給食関係書類作成等の業務から、電話・来客対応の雑務まであげられており、勤務時間内に終わらない仕事は、時間外勤務や休日出勤で対応している。「超過勤務手当が実績どおりに支給されていない」と回答した割合は78.6%であり、超過勤務手当の支給については仕事量に見合うように改善する必要があると考える。

Ⅲ 栄養教諭・学校栄養職員の研修希望について

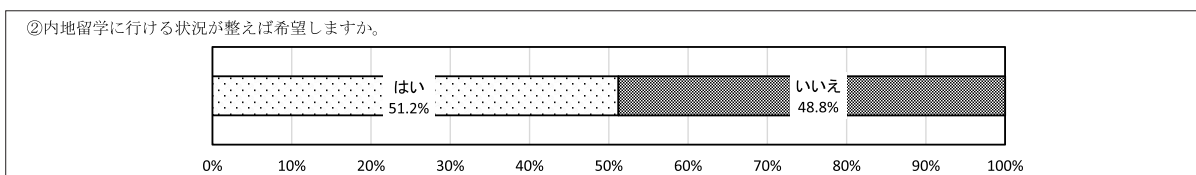
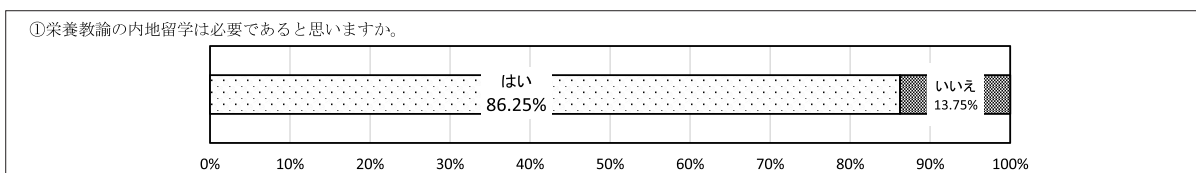
1 どんな研修を希望しますか。(複数回答) n = 137



考 察

新学習指導要領の食育や食育の評価方法についての研修を望む声が多い。ニーズに合わせたより高度な専門知識を習得し、食に関する指導の充実を図りたいと考えている会員が多いことがうかがえる。また、安全安心な給食を提供するために衛生管理に関する研修や、栄養教諭に求められている個別指導に対応していくため、肥満・るい瘦・スポーツ栄養・食物アレルギー対応に役立つ知識や情報を得る機会を望む声が多い。総合教育センターの専門研修等で、これらの研修が行われるようになってほしい。

2 内地留学について n = 80



考 察

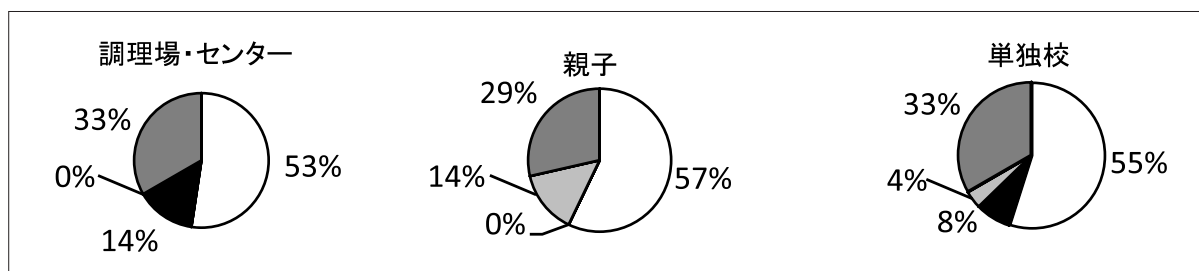
今年度は栄養教諭のみの調査であったが、栄養教諭の意識調査では86.3%の人が内地留学が必要であると回答しており、状況が整えば希望すると答えた人も半数を超えている。栄養教諭も制度化されて13年が経ち、さらに食育を推進、充実させるために、指導的立場の栄養教諭の育成が必要である。内地留学では、栄養教職員が派遣対象であることを関係機関に周知させ、栄養教職員が近い将来派遣されることが望まれる。内地留学で最新の教育情報を得ることにより、県全体の食育指導の向上が期待される。

IV 教職員評価制度についての考え

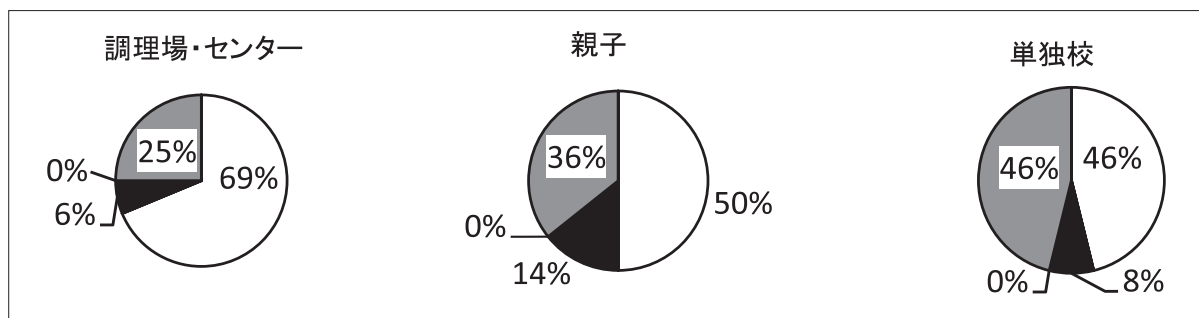
1 公正な評価のためには誰が評価すべきか

	①今までと同様に他の教職員と同じ学校内での評価（第2次評価者は所属校の学校長）
	②職種別評価に移行（市町や地区の栄養教職員を教育委員会等の担当管理職が評価）
	③栄養教諭は他の教職員と同じ学校内での評価、学校栄養職員は市町・地区で職種別評価
	④単独校は学校内での評価、調理場・センター勤務は市町や地区で職種別評価

★栄養教諭 n = 80



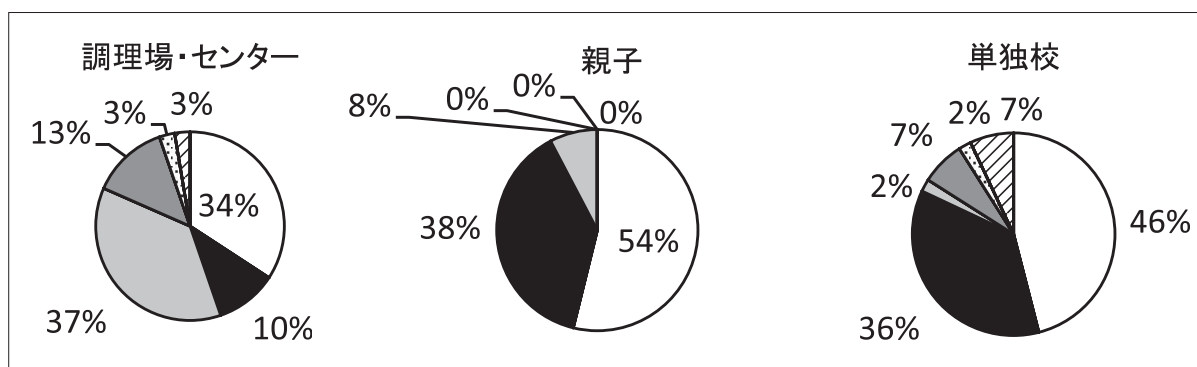
★学校栄養職員 n = 57



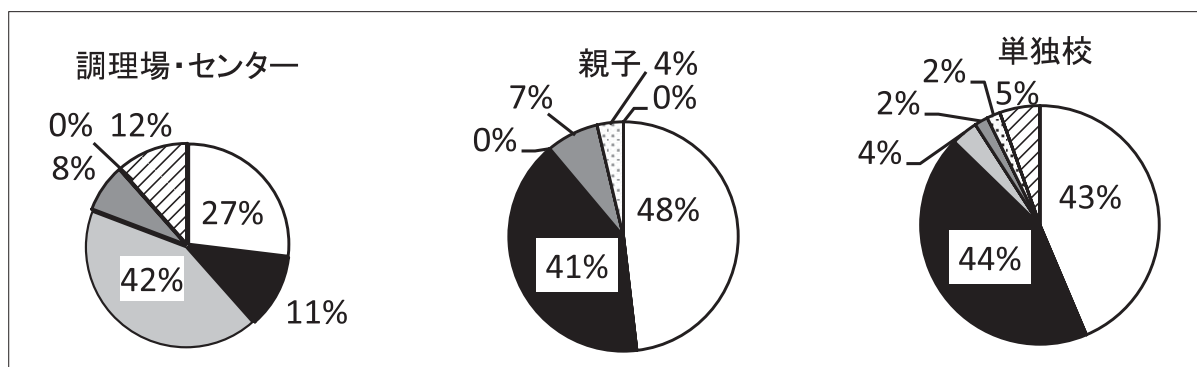
2 職務内容について理解していると思う人

	①所属校の学校長
	②所属校の教頭（副校長）
	③所属する調理場長・センター長
	④市町教育委員会で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑤教育事務所で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑥その他

★栄養教諭 n = 80



★学校栄養職員 n = 57



考 察

今年度も「公正な評価のためには誰が評価すべきか」「職務内容を一番理解していると思う人は誰か」の2つについてアンケートを取った。その結果、今までと同様に校内で他の教職員と同じ学校内での評価が一番多い結果となった。また、自分の職務内容を理解している人は、いつも一緒に仕事をしている学校長や教頭、センター長や調理場長であった。栄養教職員は他の教職員と異なり、配置状況や職務内容が多様であるため、評価が難しい職種である。

今年度より、教職員評価制度は実施方法が大きく変わった。評価方法が変わっても誰もが納得でき、公正な評価が得られるものであること、さらに市町職員であるセンター長や調理場長への更なる周知が重要である。